

ホンモロコの種苗生産における餌料系列改善試験

三枝 仁・吉岡 剛

◆ 背景・目的

ホンモロコの種苗生産においては、施肥培養もしくはタンクで培養したワムシ類やミジンコ等を初期餌料として給餌している。しかし、生物餌料培養は時として不調に陥ることがあり、これら培養不調は種苗生産の結果に悪影響を及ぼす。そこで、種苗生産における効率化を図るため、餌料系列にアルテミアふ化幼生を組み込み、その有効性を検討した。

◆ 成果の内容・特徴

- ・ 種苗生産には、天然第一世代から採卵し、5月10日から13日にふ化させた仔魚819千尾を用いた。
- ・ 飼育は屋外の40㎡の池を用い、同じ日にふ化した仔魚を等分に分けて2池に收容し、ツボワムシと配合餌料を給餌する通常区とツボワムシ給餌からアルテミアふ化幼生給餌を経て配合給餌を行うアルテミア区を設定し、38日間飼育と40日間飼育で2回試験を実施した。
- ・ 試験の結果、アルテミア区の生残率は2回の試験ともに通常区を上回っていた。また、取上げ時点のサイズにおいてもアルテミア区が通常区の同等以上となっていた(表)。

◆ 成果の活用・留意点

- ・ ホンモロコ種苗生産において、アルテミアふ化幼生の給餌を導入することが有効であることが判った。
- ・ アルテミアふ化幼生は淡水中で速やかに沈殿することから、1日量を複数回に分けて給餌するなどの工夫が必要である。

表. アルテミア給餌試験結果

区分	餌料系列	飼育 日数	ふ化仔魚 收容尾数	生産 尾数	生残率 (%)	平均体長 (mm±標準偏差)	生産 重量(g)
アルテミア1	ワムシ→アルテミア→配合	38	201,181	126,673	62.96	12.90±1.95	3,641
通常1	ワムシ→配合	38	201,181	102,706	51.05	11.73±1.81	1,748
アルテミア2	ワムシ→アルテミア→配合	40	208,314	142,809	68.55	12.99±1.40	3,891
通常2	ワムシ→配合	40	208,314	141,607	67.98	13.18±1.65	4,145